

令和7年度

市民センターを楽しむ

# まよびの カタチ

すてきな花を  
咲かせよう

仙台市教育委員会

## 目次 contents

市民センターで実際に事業に参画し、学びを楽しんでいる市民の方々の取り組みをご紹介します。  
(令和7年度の活動)

P03 青葉区〈青葉区中央市民センター〉  
西公園ブランディング  
プロジェクト ※

P09 宮城野区〈岩切市民センター〉  
広がれ！  
スズムシの輪(リーン)

P04 青葉区〈柏木市民センター〉  
防災デイキャンプ2025  
in通町小

P10 宮城野区〈榴ヶ岡市民センター〉  
東口ゆうえんち

P05 青葉区〈北山市民センター〉  
北山さんぽみち  
ー過去から未来へ

P11 宮城野区〈幸町市民センター〉  
日本全国幸町プロジェクト  
ー#幸町でつながろう！

P06 青葉区〈旭ヶ丘市民センター〉  
台原森林公園を  
まるごと楽しもう

P12 宮城野区〈田子市民センター〉  
地域連携宮城県準絶滅危惧種  
ミズアオイ生息地田子プロジェクト

P07 宮城野区〈宮城野区中央市民センター〉  
まいぷろ ※

P13 若林区〈若林区中央市民センター〉  
仙白縁プロジェクト ※

P08 宮城野区〈高砂市民センター〉  
高砂の魅力  
再発見プロジェクト

P14 若林区〈若林区中央市民センター〉  
わかプレ  
ー中高生の居場所 ※

P15

若林区 〈若林区中央市民センター〉  
子どもイベントを考えよう  
ーワイワイ!こどもまつり

P22

太白区 〈茂庭台市民センター〉  
みんなの広場プロジェクト

P16

若林区 〈七郷市民センター〉  
Nanaフェス!

P23

太白区 〈富沢市民センター〉  
パワフルとみざわネットワーク

P17

若林区 〈六郷市民センター〉  
わたしの  
ふるさとプロジェクト

P24

泉区 〈泉区中央市民センター〉  
ICP  
Izumi Community Project ※

P18

若林区 〈沖野市民センター〉  
集まれ!わんぱくキッズ  
ーお父さん出番です

P25

泉区 〈泉区中央市民センター〉  
まちを知る 七北田を歩く  
ー地域いきいきプロジェクト

P19

太白区 〈太白区中央市民センター〉  
長町秋のフェスティバル2025  
ーみんなが主役!長町広場! ※

P26

泉区 〈根白石市民センター〉  
かむりの里・子育てプレイス  
ー地域いきいきプロジェクト

P20

太白区 〈太白区中央市民センター〉  
太白おやじネットワーク事業

P27

泉区 〈松陵市民センター〉  
つながるプロジェクト

P21

太白区 〈山田市民センター〉  
楽元の森プロジェクト

※高校生・大学生世代が中心に活動した事業



## 事業概要

本事業は、若者が活動を通して、自己のものの見方や考え方を広げ、地域に対する関心を高めることができるよう支援し、将来の地域の担い手として自発的・主体的に行動できる「人づくり」をねらいとしています。リサーチ、コンセプト策定、戦略立案、そして最終的なプレゼンテーションまでの一連の流れを体験し、その成果を区長または市長に提案します。

## 現状分析

ブランド  
コア設定

## 戦略設計

コミュニケー  
ションデザイン仙台市  
への提言

## 令和7年度の活動

2年間かけて市内6大学の学生と、ブランディングを専門としたデザイン会社である株式会社 BLUESODA、そして行政が連携し、若者を主体とした学習・実践活動を推進しています。学生は、西公園の利用実態や強みや弱みを調査・分析し、公園の新たな魅力づくりや発信方法を検討します。その過程で、株式会社 BLUESODA からは、企業で用いられている戦略検討の手法を駆使して公園利用の戦略について検討します。大学からは地域学習や教育的視点が提供され、行政は他団体との調整や実践の場を保障します。このように、産（企業）・学（大学）・官（行政）がそれぞれの強みを持ち寄り、若者が主体となって西公園の新たな価値を創出する取り組みが本プロジェクトの大きな特徴です。



## 成果と課題

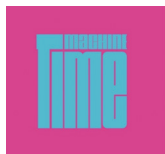
来年度の仙台市への提案に向けて、今年は「現状分析」「ブランドコア設定」に取り組みました。実際に、西公園ユーザーへのインタビュー、3C分析、SWOT分析等、社会に役立つ専門的な手法で分析を行いました。大きな課題は特になく、成果としては、「若者が来る西公園の実現」に向けて、若者自身が「自分事として」本気で考え、学んでいることです。また、このプロジェクトは、多くの大学関係者や西公園界隈の団体を巻き込んで進んでいることも成果の一つです。仙台市への提案にとどまらず、具体的施策への協働も目標に掲げています。



## 今後の展望

～若者による情報発信 オウンドメディア「BEYOND THE TIME」～

若者事業に参加する学生たちが中心となって記事を作成し配信をしています。学生たちがテーマを決め企画書を作成し、インタビューへのアポイントも取りながら、記事作成をしています。西公園らしさ創出に向けて見えるものを作っています。実際の若者の視点や声に触れることができるメディアにもなりますので、ぜひご覧になってください。





### 事業概要

小学生の親子が協力しながら、災害時に役立つ知識を習得し、技能を高め合い、いざという時の判断力や行動力を育むこと、また親子の絆をいっそう深める機会を提供することを目的として「防災デイキャンプ 2025 in 通町小」の開催に向けて取り組んできました。

令和6年度と同様に東北福祉大学学生サークル「PASS」に協力を依頼し、「防災レンジャー」の登場を盛り込んだストーリー仕立ての内容で、子どもたちに防災意識を自然と身に付けてもらえる構成としました。



企画会の様子

### 令和7年度の活動

7月から12月までに振り返りを含め計5回開催した企画会では、事業の目的や実施に向けた認識を共有しながら議論を重ねました。そこから、「防災・防犯」を意識しつつ、親子でいくつかのミッションに挑戦しながら、防災を楽しく体験的に学べる構成としたお楽しみイベント「暗い校舎でお宝さがし」というミッションを企画・新設しました。

※左の写真は「暗い校舎でお宝さがし」で使用する台紙です。



お宝さがし用台紙

講座は11月8日(土) 15時～18時、通町小を会場とし、小学生と保護者あわせて10名が5つの防災ミッションにチャレンジする予定でした。しかしながら、開催日1週間前にインフルエンザなどの影響により学校閉鎖となったことから、令和7年度の開催はやむなく中止となりました。

### 成果と課題

成果： 通町サポーターズ、通町小学校、PASSとの協力的な企画・運営を通して、目的等を明確化したことにより認識のズレが埋まり、前向きな意見交換ができたと感じました。

また、企画会を通して顔の見える関係を構築したことにより、新たに地元消防団とのつながりを持つことができました。

課題： PTAの企画員募集が不安定であることから、町内会や防犯協会など地域の方々を巻き込んでいくことが当面の課題と考えています。

### 今後の展望

振り返りの企画会で、令和8年度は令和7年度に企画・決定したものと同一内容とし、時期については他の行事や協力いただく団体のスケジュールを確認しながら早期(11月→6月)の開催を検討していくこととしました。

今後もPTA、小学校、地域の方々と連携していき、親子が楽しめる防災減災学習を通して家庭単位での防災力を高めることにより、地域全体の防災意識向上を図ることにつながるよう取り組んでいきます。



ペットボトルランタン完成イメージ



## 事業概要

時代による北山周辺の変化の様子を、住民の視点で掘り起こし、記憶を伝え、魅力あるまちづくりにつなげることを目標に、現在まで様々な場所を訪ねて学習しています。令和5年6月から7月にかけて、「リングの唄の謎」と「北山稜線めぐり」をテーマに講座を実施。参加者の中から市民企画員を募って活動を開始しました。令和6年3月には、「荒巻の思い出を辿る」令和7年4月には、「新坂通り探訪 坂と桜とお寺さん」という公開講座を企画実施し、その講座受講生からも新たな企画員を募り活動を行っています。



大学病院 見事な桜

## 令和7年度の活動



へくり沢散歩道を歩く

北山周辺の水跡をテーマにすることを企画会議で決め、へくり沢跡、四ツ谷用水跡、北山を流れた小川跡を一年かけて辿ることになりました。へくり沢は「へくり沢散歩道ウォークマップ」、四ツ谷用水は「四ツ谷用水再発見! デジタルマップ」、北山の小川は「昭和39年の仙台地図帖」を参考に散策しました。講師を頼まず、地図を片手に現在は暗渠になっている水跡を探し当てるのは、小さな冒険をしているようで、企画員同士の会話も弾みました。また、4月に新坂通を歩き学んだ成果を北山交流まつりで展示発表し、地域の方たちに広めることができました。

## 成果と課題

成果： 北山交流まつり発表用に作成したパネルが来館者に評判を呼んだことから、他のセンターでも展示することを話合いで決めました。テーマが「新坂通」なので、最初は近い場所の市民センターを想定しましたが、それぞれの企画員が住んでいるところの各センターにも展示することになり、自分の住んでいる町で学習成果を発表できることになりました。



北山交流まつり展示

課題： 夏の暑さと冬の寒さが散策のネックとなっていて、企画会議で決定し散策するパターンを年度単位で考えるのは難しくなっており、短い春と秋に集中して散策できるように企画会議のスケジュールを考えていくのが今後の課題です。

## 今後の展望



熱のこもった話し合い

今後も散策を通して地域資源の発見や確認をする企画員主体の学習を続けていきます。また、北山を流れる川跡のマップなどが今までに発行されていないようなので、今までの散策をもとに年代ごとの川マップ等を作成し、令和8年度の北山交流まつりや他市民センターへの展示発表を続けて、地域の魅力の数々を地域に発信していきます。



## 事業概要

地域資源であり、市民憩いの場でもある台原森林公園。訪れる方も多く、窓口で地図を求められる事もありますが、現状に合わない約20年前の地図しかありませんでした。そこで、台原森林公園を散策し、いずれは地図等の形でまとめたいと、令和4年度に講座がスタートしました。散策を中心に自然に関する講話、自然素材を使った工作等を開催しました。講座を通して、台原森林公園・自然の魅力を体感するとともに、環境について考えるきっかけともなりました。森林公園の見どころをまとめる中で「成果を発信したい」との意見が上がり、令和6年度に地図づくりに着手し、年度末に完成しました。



企画会の様子

## 令和7年度の活動



意見要望提出

令和7年度は5月～11月までの全6回の予定で講座をスタートしました。春の散策会に向けてルートや役割分担についての話し合いを行い、下見を実施しました。春の散策会当日は想定以上の雨であったため、急遽ルートを変更の上、時間を短縮して実施しましたが、雨ならではの魅力を伝える事ができませんでした。また、令和6年度にまとめた、台原森林公園についての意見要望を青葉区公園課に伝える事もできました。秋の散策会は、近隣でクマの目撃情報が報道された事から2月に延期して実施しました。初夏と冬の季節による台原森林公園のそれぞれの魅力を楽しむことができました。

## 成果と課題

成果： 令和7年度より開催している散策会のチラシ、タイムテーブル等の作成を企画員が自主的に行っています。地図という形で学習成果を発表できた事が企画員の自信となり、意欲の向上へつなげていると考えています。

課題： 散策会及び事前準備等、企画員の負担が大きくなっていると感じています。企画員が無理なく楽しんで参加し学習できるように、支援していきます。



令和7年度 春の散策会

## 今後の展望



企画員による準備体操

完成した地図は大変好評で、利用者や仙台市立旭ヶ丘小学校など多くの方に活用いただいています。また、地図を活用した散策会も定員以上の申込みがあり、好評です。令和8年度も、継続して地図を活用した散策を開催していく予定です。また、地図のさらなる活用を目指し、地図をPRしていきたいと考えています。地図・講座への参加を通し、より多くの人に台原森林公園の魅力を感じてもらいたいです。



## 事業概要

「まいぷろ」は、宮城野区中央市民センターが実施する若者社会参画型学習推進事業です。高校生が地域の魅力を写真で再発見し、発信することで、地域理解と愛着を深め、主体的な地域貢献意欲を育むことを目的としています。社会・地域の一員として、自発的・主体的に行動できる人づくりを目指します。



## 令和7年度の活動

市内の高校生11名が企画員となり、月1回の企画会を通じ活動しました。

- 地域の自然や文化を撮影し、カレンダー・ポストカード制作を企画
- 撮影スポットの選定や写真撮影ツアーを高校生自身が計画
- プロカメラマンによる撮影講座を実施
- 写真展示会を市民センターで開催



活動を通じて、高校生は地域の魅力を自分の視点で再発見し、写真を通じて表現する力を養いました。地域の人々との交流や現地体験を重ねることで理解が深まり、身近な課題や魅力に気づききっかけとなりました。こうした経験は、高校生の考えや想いを形にし、地域とのつながりを強めるものです。

## 成果と課題

企画員の高校生に、まいぷろに参加して実感したことを聞いてみました。

成果 ～成長できたこと～	課題 ～こうしていきたいと思うこと～
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力</li> <li>・人前で話すことの抵抗が少し減った。</li> <li>・実際に目にしたこと、耳にしたことを言語化し、表現できた。</li> <li>・自分の考えを伝える力がついたと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この町のためになにかをしたいと思う。</li> <li>・より多くの地域住民と交流する機会を増やしたい。</li> <li>・写真と文章を組み合わせた発信力をさらに高めたい。</li> <li>・多くの人に感動を届けたい。</li> <li>・次年度はオンライン発信や動画制作にも挑戦したい。</li> </ul>

## 今後の展望

今後は、今回の取り組みを一過性のイベントに終わらせることなく、継続的な学びと交流の場として発展させていきたいと考えています。具体的には、高校生が自らテーマを設定し、地域の魅力や課題を掘り下げる活動を重ねることで、より深い地域理解を促します。

また、活動の過程で生まれた写真や意見を記録・共有し、地域の人々と対話する機会を設けることで、若者の視点を地域づくりに活かす仕組みを整えていきます。こうした取り組みを通じて、高校生が自分の考えや想いを表現し、それが地域に響く経験を積むことは、将来の社会参画への大きな一歩となります。着実に地域の魅力を再発見しながら、若者と地域がともに成長できる場を育てていくことを目指します。





## 事業概要

高砂地区は、かつて米や魚の運送で栄えた緑豊かな田園地帯であり、古い歴史を持つ地域です。数々の遺跡も発掘されています。しかし、仙台新港の建設や都市整備計画により、JRの駅周辺では都市化が進む一方、海沿いの地域は東日本大震災によってまちの風景が大きく変わりました。そのため、現在では「被災地」として語られることが多い地域となっています。こうした歴史や背景を踏まえつつ、高砂地区が持つ魅力を地域住民とともに再発見し、その価値を広く発信していくことを目指しています。



## 令和7年度の活動



5月に、岡田地区で仙台市の「とれたて仙台プロジェクト」に参加している方の取材をしました。朝に収穫した農産物をその日のうちに新鮮なものを市民の食卓へお届けできるよう、毎日丁寧に畑の世話をしているとのことでした。取材の成果は、今後MAP作りに生かします。11月には、福田町周辺を歩きながら風景写真を撮影しました。

令和8年3月24日(火)～29日(日)には、電力ビル1階アクアホールにて、「高砂に生きる～震災のマエとアト～」と題し、写真展を開催しました。

## 成果と課題

令和7年度は高砂市民センターが大規模修繕工事のため使えず、思うように講座を開催することができませんでした。しかし、そんな中でもまち歩きを実施することができました。また、これまでに撮りためた写真や、地域の方から提供された写真などを活用して写真展を開催することができました。高砂の変遷や魅力を伝え、見つめ直す良い機会となりました。



## 今後の展望

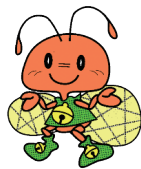


令和8年度は「高砂の魅力再発見プロジェクト」の最終目標である「高砂のお役立ちMAP」の作成に取り組んでいく予定です。どのようなマップにするのか、対象者は誰にするのかなど今後議論を重ねて内容を検討していく予定です。イラストなどをふんだんに使い、視覚的に分かりやすい地図作りを目指しています。



## 事業概要

岩切市民センターを活動拠点とする「すずむしの里づくり実行委員会」は、仙台市の虫「スズムシ」を普及し、自生できる自然環境の大切さを多くの市民に啓発してきました。具体的には、飼育、出前授業、配布交換会、実験放虫、広報活動等の多岐にわたります。令和7年度で31年目となる活動ですが、高齢化が進み、次代の担い手の育成が急務となっています。そこで、すずむしの里づくり実行委員を中心とした企画員と一般の方で、スズムシを知り、親しみ、楽しむ中で、参加者同士の輪を広げ、担い手の発掘・育成へとつなぐことを目的に講座を展開しました。



リンリンちゃん

すずむしの里づくり  
実行委員会  
マスコットキャラクター

## 令和7年度の活動



岩切市民センターでは、館内で約10万匹のスズムシを飼育しています。令和7年度は、岩切市民センターが大規模修繕工事の期間に入るため、秋以降はスズムシを飼育することができなくなりました。この状況を見据え、企画員たちは、スズムシの里親制度を考えました。各家庭でスズムシを育て、その育てたスズムシを事業のために提供していただく制度です。夏の配布交換会に来場した方々に里親制度の趣旨説明と募集を行ったところ、34の家庭から里親登録にご協力いただきました。秋には、里親同士の情報交換を目的にした「スズムシカフェ」も開催しました。また、10月の岩切市民まつりでは、はじめての試みとして、スズムシの羽をモチーフにしたアクセサリーを作る体験コーナーを設置しました。当日はこどもたちから高齢者まで多くの人たちでにぎわいました。

## 成果と課題

令和7年度、スズムシの里親制度をスタートできたことは大きな成果であり、新たなスズムシ愛好家同士のつながりを創出することができました。さらに、スズムシカフェの開催により、横のつながりを強固にすることができました。岩切市民まつりでの体験コーナーでは、スズムシの魅力を新たな視点から発信することができ、参加者からはとても好評でした。これからもスズムシの輪を広げていくためには、新たな活動の枠組みづくり、楽しんで講座に参画してもらうきっかけづくりが大切と考えています。



## 今後の展望



メンバーの高齢化が進むすずむしの里づくり実行委員会が、これからも持続可能な組織として維持され、今後も仙台市の虫「スズムシ」の普及活動に継続して取り組むことができるような仕組みを考えていくことが必要です。令和7年度の活動を通してできた「つながり」を強化していくとともに若い世代の人材が積極的にスズムシ事業に関われるような環境を整えていきたいと考えます。



### 事業概要

榴岡地区は子どもが多く、子どもたちが安心安全に遊ぶことのできる場が求められています。本事業は、家庭や学校では経験できない遊びを通して、学校や学年の違う子どもたち同士が一堂に楽しみ、子どもたちとボランティアスタッフの異世代交流を行うことで、子どもたちの“人間関係を築く力”を養うことを目指して開催しています。

講座として15年以上の歴史があり、令和3年度から宮城野区中央市民センターと共催で実施しています。



### 令和7年度の活動



学生と社会人の企画員が、子どもたちが安心安全に楽しめる遊びと学びを考えながら企画運営を行っています。令和7年度は企画会を12回、イベントを4回開催しました。

#### 【東口縁日 6月22日(日)】

オリジナル通貨「イースト」を使って企画員手作りの遊びを楽しむ夏のイベント、「東口縁日」を開催しました。買い物やお金の勉強をしながらお祭り気分を味わえる人気の企画です。

#### 【ウォーターバトル 8月24日(日)】

コロナ禍以来、久しぶりに外遊びのイベント、「ウォーターバトル」を開催しました。参加者それぞれが持ち込んだペットボトルで水鉄砲を作り、相手の持っているポイを目掛けて、チームに分かれて本気のバトル!暑い夏にちょうどよい企画でした。

#### 【こうさくえすと 11月23日(日)】

工作とクエストの要素を組み合わせた令和7年度の新企画「こうさくえすと」を開催しました。市民センター全館を使って工作やミッションをクリアしながら宝箱を探すというイベントです。企画員がーから考えた全てのミッションクリアを目指して頑張る子どもたちの姿が見られました。

### 成果と課題

令和7年度は昨年度のアンケートを基に新企画「こうさくえすと」を発案し地域や参加者の特徴や希望に沿ったイベントを開催しました。また、榴ヶ岡市民センターまつりや、榴岡がいわい学びのコミュニティづくり推進委員会が主催する、つつじがおかワイワイ冬まつりへの参加を通して東口ゆうえんちをより地域に広めることができました。今後は新規企画員の増員や定着に向けてどう広報していくかが課題となっています。



### 今後の展望



2月15日(日)に、「真冬のお化けやしき ザ・ライド〜この冬、忘れられない恐怖体験をあなたに〜」を開催しました。令和7年度も、企画員の経験とアイデアを活かし、学校や家庭では経験できない遊びの場、学年の違う子どもたち同士や企画員との異世代間交流の場を提供することができました。令和8年度も子どもたちを楽しんでもらえる企画を考え、事業を継続していく予定です。



## 事業概要

「幸せな町になってほしい」との願いが込められた「幸町」の地域を知り、他地域の「幸町」とつながるために令和5年度から会議を重ね活動してきました。令和7年度はガイドマップ等を活用し、地域の魅力を発信することを通じて地域活性化を目指しています。



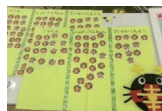
## 令和7年度の活動



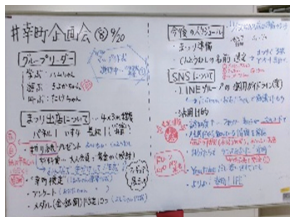
今年度は、令和6年度から制作を始めたガイドマップを片手に、まち歩きからスタートしました。柞江の森や与兵衛沼などの自然あふれるエリアと、市街地エリアを2日に分けて散策しました。

また、市民センターまつりに参加して、「よへえちゃん」と名前をつけた白鳥のキャラクターやてんとう虫のキャラクターの折り紙のブースを担当しました。てんとう虫の名前はシールによる投票を行い、幸町に関するアンケートは専用フォームを作成して実施しました。来場者には、3Dプリンターで作製した金・銀・銅のメダルをプレゼント。その他、野生動物やドローンなどの映像放映も行いました。

SNSの発信を目指し、企画員で勉強会を行いました。その結果、インスタグラムで活動を発信することができ、作成したロゴマークや、市民センターまつりの活動の様子をアップロードしています。



## 成果と課題



幸町の魅力をまとめたガイドマップを完成させることができました。今後、講座や学校の授業などでの活用を目指しています。

また、リーダー・副リーダー・補佐を決めたり、「学ぶ」「遊ぶ」「叫ぶ」の3つの部会を作ったりするなど、自主的な活動ができています。グループ内の規約や、外部へSNSを発信するときの運用ポリシーなども独自に作成して臨んでいます。一方、3つの部会については、まだ具体的な活動が定まっておらず、今後の活動に期待しています。

## 今後の展望



今年度で講座がスタートして3年目、大人事業としては2年目となります。カルタや紙芝居づくりにも挑戦したいなど、メンバーは意欲に満ちています。「笑顔あふれる魅力的なまち幸町」を目指して地域活性化への取り組みを、今後3年くらいかけて活動していく予定です。地道な関係づくりを継続しながら、SNS発信を強化して、他地域の「幸町」との交流も実現させるのが夢です。

# 地域連携宮城県準絶滅危惧種 ミズアオイ生息地田子プロジェクト



田子市民センター  
HP

## 事業概要

東日本大震災の津波によって被害を受けた沿岸域の周辺地域では、生育環境が悪化して姿を消していた国の準絶滅危惧種であるミズアオイが復活した場所が報告されています。田子地域内でも、令和5年度田子の魅力発信広報部の企画講座の下見の際に田子地域を流れる七北田川沿岸にミズアオイの生息場所を発見しました。しかし、それらも大雨などの災害により生育環境がなくなってしまう状況にあります。地域にある田子小学校、田子小学校PTAと協力し、地域住民とともにミズアオイを育てる学習を通して、地域の環境保全を考えるきっかけとします。



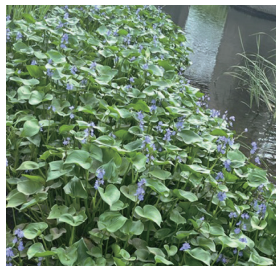
## 令和7年度の活動



4月から7月は、前年に育てた株から出た芽を新たに株分けし、PTAの方々や児童・地域のボランティアとともに勉強会を行いながら育てました。8月には、高砂小学校・宮城野高等学校・蒲生バイオマス発電所のビオトープなどへ田子小学校で育てたミズアオイの花を持っていきました。夏休みには、PTAと共催したミズアオイの勉強会と「花盛りのヒダマリノイケ」観察会を実施しました。10月には近隣の方々と梅田川の環境調査を行い、地域の方に在来種としてのミズアオイを知っていただく機会ができました。

## 成果と課題

田子地域に自生していた宮城県準絶滅危惧種のミズアオイをテーマに、田子小学校PTAと地域の人々が自分たちの住む地域の自然環境について学ぶ機会となりました。田子と周辺地域のミズアオイ生育地調査を通して、近隣町内会と地域河川環境保護活動のネットワークができる可能性が出てきました。ミズアオイは自生する環境によって、生育場所を移動します。また、農業従事者にとっては水田雑草となり得る植物でもあります。ミズアオイの学習をきっかけに、地域住民が地域の自然環境を見つめ直すとともに、周りの環境に配慮した保護活動を続けていくことが課題となります。



## 今後の展望



田子地域のミズアオイは震災遺産と言われる貴重な植物です。自生するミズアオイの大きなコロニーが、宮城野区仙石の住宅地の中の梅田川や最初に自生地が見つかった上田子付近の七北田川にあります。場所や規模の変化はありますが、毎年8月から9月末まで青い花を咲かせます。東日本大震災の津波被害を受けた人々を支援し、また被災者の移住先として新しい地域が形成されている田子にとって、ミズアオイは象徴的な植物ではないでしょうか。それを題材として地域の人々が専門家とともに環境学習や保全活動を続けていけるよう支援をしていきます。



## 事業概要

「若者の発想」をもとにして活動を計画します。たくさんの人と関わり、学び、仲間を増やし、自分も地域も笑顔になる活動を企画・実施します。令和7年度は、地域で行うイベントを秋と冬の2回開催しました。活動を通して地域・社会貢献と自分たちのスキルアップを目指しました。

## 令和7年度の活動

## ①若者が教える!プログラミング教室

南小泉小学校地域では、子ども会が解散してしまい、こどもたちの交流する機会が減っています。そこで、こどもたちが楽しく交流できるイベントを企画し、11月15日(土)に若林区中央市民センターで「若者が教える!プログラミング教室」を開催しました。イベントの計画、チラシ作り、物品準備などをすべて自分たちで行いました。当日は、応募して参加した小学生が8名。当日の飛び入りで参加した小学生が11名の合計19名の参加でした。小学生は、初めは緊張した様子でしたが、次第に大学生とふれあう楽しさが広がり、パソコンを一緒に操作しながらプログラミングを学びゲームを作成しました。作成したゲームを使ってこどもたち同士が、点数を競ったり、対戦をしたりするなどの交流が生まれました。



【プログラミング教室の様子】



【図書館に来ていた小学生に教室へ案内】

## ②みんなで作ろう!巨大すごろく&amp;昔あそび工作会

地域のこどもたちが交流するイベントを開催したいという思いから、2月1日(土)若林区中央市民センターのホールで「みんなで作ろう!巨大すごろく&昔あそび工作会」を実施しました。こどもたちが作ったマスを自分たちで配置して、若林区の地名を学びながら、巨大すごろくを楽しみました。プラとんぼとメンコ作りも親子が一緒になって楽しむことができました。



【平日の夕方が集まってイベントの企画中】

## 成果と課題

今年度、学生ボランティア団体「TGU情報リテラシー教室」所属のメンバーが加入したことにより、彼らが得意とする情報教育を地域のために生かすことができました。地域の要請で高齢者向けスマホ教室に若者が参加したり、小学生向けのプログラミング教室の中で情報リテラシーを教えたりすることで異世代交流が生まれました。高齢者やこどもたちが若者と交流することで笑顔になり、若者たちもイベントを実施した達成感を感じることができました。課題としては、新しく加入したメンバーと昨年度から活動していたメンバーとのスケジュールが合わず定例会の参加者が流動的になってしまったことです。今後はメンバー全員でイベントの企画や交流をしていきたいです。

## 今後の展望

今年度は、若林区内のこどもたちの交流の活性化のイベントを中心に企画しました。今後も地域課題を捉えた活動を続けます。また、活動を続けながら若林区の若者事業の魅力を発信し、多くの人たちが笑顔になれる事業を計画していきたいと思ひます。



【高校生・大学生・社会人が一緒に活動中】



### 事業概要

高校生が主体となり、中学生や高校生が「同世代のつながりや小さなコミュニティを作る、楽しくられる、自分らしくいられる場所、安心できる場所」を自分たちで作りたくて活動を始めました。「中高生の居場所づくり」を目指して活動を企画・実施しました。

### 令和7年度の活動

市内の高校生4人が集まり、今年度は若林区文化センター内「わかぼーと」にて「わかプレ」を4回実施しました。事前の打ち合せでは、スペースをどのように活用していくか、準備しておくものは何か、広報はどうするのか、当日スタッフの役割はどうするかなど、企画員自ら準備を進めました。当日は企画員の高校生の他に、大学生ボランティアにも入ってもらい、参加者・スタッフが近い年代で活動ができるようにしました。

7月に行った第1回は、場所を「読書コーナー」、「学習コーナー」、「飲食コーナー」、「ボード・カードゲームコーナー」など、用途に分けブースを作りました。はじめのうちは、用途に合わせて活動を行っていたのですが、最終的に17名の利用者全員がウレタンマットに座り、ゲームを行っていました。利用後のアンケートでもボードゲームやカードゲームが人気でした。

それを踏まえ第2回は、部屋全面にウレタンマットを敷き、靴を脱ぎ、座って活動ができるようにしました。ボードゲームやカードゲームが人気で、参加者11名の事後アンケートも満足度が高かったです。

第3回は、これまで人気だったボードゲーム・カードゲームを強化しようと、市内で活動している「こりれいず」さんを招き、たくさんのボードゲーム・カードゲームを準備しました。こちらも大人気で、13名の利用者が企画員と一緒に楽しい時間を過ごしました。

第4回は、工作イベントを実施し、ハーバリウムを製作しました。こちらも参加者から大好評でした。どの回でも、企画員が参加者と交流することで、初めて出会った参加者同士がゲームを一緒に楽しんでいる姿が印象的でした。

### 成果と課題

高校生が企画を立て、自分たちで準備を進め実施できたことは、企画員の大きな力になったと考えます。また、同じ年代の中高生を集め、つながりを作ることができたことが成果です。利用者からも「次も参加したい。」「次はいつやるんですか。」という声が多く聞かれたので、引き続き開催できるよう準備を進めていきたいです。

### 今後の展望

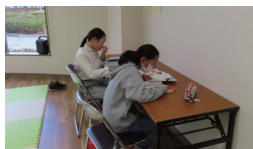
今年度は、企画を発足させた高校生4名が中心となって活動を行いました。活動に賛同するメンバーを集め、活動を継続させていきたいです。



【場所は若林区文化センター内わかぼーと】



【参加者、企画員と一緒にゲーム】



【学習コーナーも人気】



【仙台若者チャレンジアワード2025で審査員特別賞を受賞しました】



## 事業概要

市民企画会議「子どもイベントを考えよう」は、住民や地域団体が、こどもたちに遊びと交流の場を提供しようと、令和5年度から会議を開催しています。地域や地域団体と協力して、情報共有や相互理解を図りながら、幅広く地域活動に携わる人材の発掘や育成を目指しています。

令和6年度からは、近隣の学校からも協力をいただき、ネットワークが広がり、地域との連携も深まっています。



## 令和7年度の活動



10月11日(土)に「ワイワイ!こどもまつり」を開催しました。南小泉パパネット(おやじの会)、町内会長、地域の小学校や児童館などで活動している企画員のアイデアを生かして、雑誌ひろきき・牛乳パックミニ工作・ニュースポーツ体験など多様な遊びコーナーを設けました。入念な事前準備や司会進行など積極的に取り組み、企画員のスキルアップにもつながりました。

当日は、約130人の親子が来場し、こどもたちは会場を自由に走りまわったり、親子で一緒に工作や遊びを楽しんだりしていました。スタッフには、近隣の高校と中学校から26名がボランティアとして参加し、様々な異世代間交流が広がりました。

## 成果と課題

町内会や地域の保育所・幼稚園の広報協力、地下鉄駅の情報ボードの活用で、未就学児から小学生まで幅広い世代の参加があり、イベントは大盛況でした。継続を希望する声も多くいただき、次年度にむけての企画員の意欲向上につながりました。また、近隣の学校との連携がより深まり、参加した学生たちにとっても大変貴重な経験となったようです。

企画員募集については、気軽に応募できる応募フォーム付きチラシを、当日来場者に配布しました。引き続き、地域団体やサークルなど地域で活躍する若い世代に企画員として協力していただけるよう働きかけていきます。



## 今後の展望

地域住民や団体とイベントを企画・運営していくことで、地域のネットワーク形成を強化し、更なる地域人材の発掘に努めていきます。また、こどもも大人も楽しめる地域密着型のイベントを開催することで、活気あふれるコミュニティの醸成、地域活性化に継続的に寄与していきたいと思っています。





### 事業概要

七郷地域は、地下鉄東西線の開通や土地区画整理事業、東日本大震災の津波被害と復興による街並みの変化により新たな住民の流入等が多く、市民企画会議において地域の新旧住民同士の関係の希薄化や交流不足、地域活動の活動停滞など地域コミュニティ形成に関わる様々な課題が上がりました。そこで、令和6年度は「Nanaフェス!～Nanaフェス1st 仮装舞踏会～」と題し、コロナ禍以降休止している地域学区民運動会の要素と仮装を取り入れ、老若男女が楽しみながら交流を持つ講座を、地域の様々な団体等と連携を持ちながら実施しました。



### 令和7年度の活動



令和7年度は新たに2名が加わり8名となった市民企画員が、令和7年4月より地域情報や意見の交換を重ね、音楽やダンス、光をテーマにした講座を企画することとなりました。

市民企画員は社会学級や体育振興会、民生委員など、地域活動の担い手も多く、それぞれの所属団体の強みや技術、人脈を生かしながら、新たな連携先と地域ネットワークを築き上げ、多様な視点を取り入れた講座の企画運営にあたりました。

### 成果と課題

6回の企画会議と運営準備を経て、12月6日(土)に「Nanaフェス!～七郷黄昏光響曲(シンフォニー)～」を開催しました。体験講座を経た大人・若者・こども団体や、普段から市民センターを拠点に活動している団体が、取り組みの成果を地域に向けて発信し、当日は250名を超える参加者が集いました。事前に地域のみなさんに作成してもらったイルミネーションのアート展示が会場をやさしい光で包み込み、学習を通じた喜びや一体感を体験できる場は、学習意欲向上や人とのつながりを深める機会の提供となりました。



### 今後の展望



今回の企画を通じて、開催後も活動への参画意欲の向上につながり持続可能な地域づくりの一翼を担えました。今後は、さらに地域ネットワークの輪を広げ、新たな価値や活力を生み出しながら、変わりゆく七郷の地域事情とニーズを反映させ、協働のまちづくりへの貢献が展望されます。





## 事業概要

六郷東部地域は、人々のつながりが強く、祭りや運動会などの行事では、老若男女が地域を挙げて参加し、絆を深めてきました。

しかし、東日本大震災により壊滅的な被害を受けました。転居を余儀なくされた方もおり、かつてのにぎわいは消え、人々のつながりは弱まりました。そこで、平成26年、六郷東部地域に暮らしている人やゆかりのある人、思いを寄せる人が「わたしのふるさとプロジェクト」を立ち上げ、六郷地域の人々の交流やにぎわい再生を願い活動しています。



## 令和7年度の活動



毎月の定例会では、地域情報を活発に交換・共有し、交流やにぎわい再生の実現に向けたイベント運営について議論を重ねています。7月には、かつて東六郷小学校で30年以上にわたり続いた夏祭りの伝統を受け継ぎ、「来てくださいん♪六郷東部夏祭り」を開催しました。世代を問わず400名以上の方々が集まり、地域伝統を継承し、交流を深める素晴らしい場となりました。2月には「第11回ふるさとにっとう鎮魂の花火」を開催しました。たくさんの参加者が集まり、互いに六郷の良さを語り合う場となりました。

## 成果と課題

夏祭りは、メンバー各自のスキルや人脈を最大限に発揮しました。その結果、今年度は開催目的に賛同する20以上の団体に加え消防車展示やアクアイグニス移動販売などの参加もあり、地域の輪が広がっています。夏祭りならではの屋台や地域に伝わる六郷くろしお太鼓、ふるさと音頭や、すずめ踊りといった演目などで地域の良さも感じることができました。さらに、大勢の中高生・大学生がボランティアとして参加する姿には、地域の未来への希望を感じました。



活動資金のための募金活動

今後の課題は、この活動を地域外や、震災当時を知らない若年世代にも認知をさらに広げていくことです。そのためにSNSでの情報発信や、地域の学校への伝承活動など、「伝えること」を意識した活動を積極的に取り入れていきたいです。

## 今後の展望



今後の展望については、3点あげられると考えます。

- ①震災の記憶の伝承活動を通しプロジェクトの認知と仲間を広げる。
- ②より多くの地域住民や若年世代を巻き込みふるさと再生につなげる。
- ③六郷地域をつなげ、次世代のリーダーとして地域活動を牽引する団体に成長する。

わたしのふるさとプロジェクトは、継続した活動の成果もあり、六郷地域で認知され、地域全体が応援し協力が見られます。市民センターとしては、プロジェクトのさらなる発展と成長のため、より円滑な運営体制づくりをはじめとして、メンバーの思いを生かせるように活動のサポートを続けていきます。



第11回鎮魂の花火 令和8年2月28日(土) 於:東六郷コミュニティ広場



### 事業概要

小学生や小学生親子対象に様々な催しを開催してきた沖野地域の2つの「おやじの会」が合体し、令和7年度から、地域のこどもたちから公募した新たな名称「沖野団dism」で活動しています。恒例の「スポーツ鬼ごっこ大会」「ソフトドッジボール大会」に加え、令和6年度に復活を目指して開催した「こども相撲」など、市民センターと一緒に企画・運営し、地域活性化に貢献しています。また、沖野地区市民まつりでのこども遊びコーナーの出店など、地域行事にも積極的に参加しています。

### 令和7年度の活動

#### ●スポーツ鬼ごっこ大会 (6月21日開催)

初めてスポーツ鬼ごっこを体験する参加者も多くいましたが、すぐにゲームに慣れて盛り上がり、大人チームとの対戦で締めくくりました。



#### ●どすこい! 沖野ちゃんこ相撲～ちゃんこと相撲を体験しよう～(11月24日開催)

前年度に引き続き、宮城県農業高等学校相撲部、東北大学学生会相撲部の学生力士のみなさんにご協力いただきました。今回は、取組観戦の後、参加者挑戦として、まわしを付けたこどもたちが学生力士と取組を行いました。また、会場にいる大人も学生力士に挑戦し、その強さを体感しました。その後は会場を移動して参加者全員でちゃんこ鍋をいただきました。



#### ●ソフトドッジボール大会 (12月6日開催)

こどもチーム同士の対戦、大人チームとの対戦を繰り上げ、応援に来ていた保護者の皆さん、地域の皆さんも一緒に盛り上がりました。



### 成果と課題



沖野地区では、市民センターとおやじの会(沖野団dism)が毎年開催する事業が恒例となっていて、参加者が楽しみにしてくれています。そのため、安定して参加申し込みがあります。また、参加者だけではなく、保護者や地域の方々も気軽に応援、見学などに参加しているため、異年齢交流につながっています。一方で活動メンバーの広がりになかなかつながらず、新規での参加メンバーを引き続き募っていきたいです。

### 今後の展望

新たなおやじの会「沖野団dism」の会の活性化を図りながら、自立して活動していけるように継続して支援することで、高齢化している町内会などの次代を担う人材となることを望みます。また、相撲など、幅広い年齢の方々が参加できるイベントを開催し、異年齢交流を通して、会の認知度を上げ、より広く地域と関わる活動に発展していくことが望ましいと考えます。「沖野団dism」の目的でもある「メンバー増」に結び付くように、市民センターではアイデアの提供、広報、事業の開催と共に、会の周知にも努めていきたいと思えます。



## 事業概要

「長町秋のフェスティバル(秋フェス)」は、「次代を担う人材の育成」を目的として、長町周辺で長年開催されてきたイベントです。令和6年度からは、若い世代の人材育成に焦点を当て、高校生・大学生による企画運営に変更しました。



本事業を通して、参加する学生が自らの将来像を思い描いたり、社会で求められるコミュニケーション力、企画力などを育んだり、若者が自信をもって社会で活躍できるように成長することを目指しています。



## 令和7年度の活動

高校・大学から募った32名の企画員(高校生15名、大学生17名)で、6月から月1回の定例会を行い、フェスティバルの企画内容や会場レイアウトを考えました。イベント直前には、ブース担当ごとに集まって計画を練ったり、必要なグッズを製作したりしました。初対面だった企画員同士も次第に交流が進み、気軽に意見を言い合えるようになりました。



イベント当日は、1,000名を越える来場者があり、会場は大いに賑わいました。長町駅前広場には魚つりやバルーンアート、太白区中央市民センター内にはお化け屋敷や工作コーナーなど、こどもたちが楽しめる様々なブースを準備しました。また、3か所のフォトスポットを製作したり、スタンプラリーのゴールで焼きマシュマロを提供したり、ブース以外の楽しみも充実させました。企画員だけで手が足りないところは、学生ボランティア28名と太白おやじネットワークの方々のお力を借りました。イベントの最後には、来場者、関係者が揃って一斉にしゃぼん玉を飛ばし、会場全体の一体感が高まりました。



## 成果と課題

秋フェスの企画・準備・運営に携わり、大きなイベントをやり遂げたことは、自信と達成感につながりました。他校の学生やサポートしてくれた大人の方との関わりからは、実践的なコミュニケーション力が高まったように感じます。また、イベントを通して親子や地域住民、学生との間で交流した経験は、多世代交流の価値や地域づくりの面白さを知るきっかけにもなりました。

一方で、企画や準備の段階では、十分に思い至らなかった部分があり、当日の来場者への対応に改善すべき点がありました。また、全体を通して、市民センターの職員の力を借りた部分も多くありました。

## 今後の展望

次年度は、計画・準備で学生が担う部分をさらに増やして、企画力や運営力も高めたいと考えています。また、今年度見られた問題を改善し、ますます地域に愛されるイベントにしていきたいと思えます。





## 事業概要

「太白おやじネットワーク事業」は、地域課題の解決に向けた事業を企画し、新たなネットワークの構築と、地域づくりに貢献できる人材を発掘・育成することをねらいとして活動しています。例年、各団体間の情報交換に加え、市内の小学校に在籍する児童とその保護者を対象としたイベント等を企画・実践しています。

## 【活動団体】

TNO（富沢・長町おやじの会）、NYO（西中田・柳生おやじの会）  
八木山おやG7（八木山小・八木山南小・金剛沢小・芦口小・向山小おやじの会）

## 令和7年度の活動

## TNO、NYO

コロナ禍が明け、太白区のおやじの会は各地区で大規模イベントを積極的に開催し、地域活動が活発化しています。今年度はメンバーのスキルアップを目的に情報交換会を実施し、事例共有や意見交換を行いました。さらに、ネットワーク拡充と地域の盛り上がりを目指し、来年度は「綱取り」の復活を予定しています。11月30日にプレイベントを開催し、盛況のうちに終了しました。参加者間の新たな交流が生まれ、来年度への期待が高まっています。



## 八木山おやG7（八木山市民センター共催）

八木山中学校へ進学するこどもたち同士の交流や、将来の地域人材の育成という共通の目標を掲げ、5つの小学校のおやじの会と八木山市民センター、太白区中央市民センターが協働して10月19日に「八木山おやG7チャレンジ企画」を開催しました。学校が異なる参加者同士がチームになり、軽トラ綱引きやスポーツチャンバラ、担架リレー、ろ過競争など、おやじたちによる趣向を凝らした種目で記録を競うイベントを行い、参加者同士の交流を生み出しました。



## 成果と課題

各地域でおやじの会と各地区館が協働し、地域住民の交流の機会を創出することができました。また、太白区中央市民センターを起点におやじの会同士の情報交換が行われたことで、互いの活動から多くのことを学び合うことができたようです。今後は、各地域において現役世代のおやじの会員を増やすことが課題です。拠点館としても、主に広報の面などで支援していきたいと思っています。

## 今後の展望

今後は、参加団体を少しずつ増やし「太白おやじネットワーク」を拡充していきたいです。各地区のおやじの会の活動状況をリサーチし、積極的に取材や広報を行っていききたいと思っています。また、おやじの会に向けた広報のみならず、各地区館や小中学校とおやじの会の連携・協働のあり方を具体的に提案していけるよう、持続可能で魅力的な事業運営のサンプルを立案したいと考えています。





## 事業概要

令和2年度に立ち上げられた自主運営組織「楽元の森運営委員会」と連携しながら、地域資源である楽元の森を整備・活用する事業の企画運営を行っています。人材の発掘や育成・スキルアップを図り、地域の活性化につながる人づくりを目指します。活動を通して、世代間交流を深め、人づくりにつなげていきます。



## 令和7年度の活動

## 6月7日(土)「親子で巣箱をつくろう!」

楽元の森に生息している野鳥や動物の講話と、森に取り付けていた巣箱の観察、巣箱作りなどを体験しました。完成した巣箱はそれぞれ持ち帰りました。



## 9月20日(土)「楽元の森でデイキャンプ」

雨天のため、会場を山田市民センターに変更しました。テント設営や飯ごう炊飯、焼きマッシュマロ、ポップコーン作りをしました。また、焼き板作りも行われ、盛りだくさんの内容でした。



## 11月15日(土)「ピカボードを作ろう!」

ボードにLEDライトを挿すとピカッと光るピカボード。今年のデザインは「交通安全」と「詐欺注意」です。講座「光と音楽のセレモニー」での点灯式の後は、来年の3月まで山田交番に展示されます。



## 11月22日(土)「光と音楽のセレモニー」

講座「ピカボードを作ろう!」で作ったピカボードの点灯式や楽元の森の紹介、ピカボードやランタンが光る中での演奏を楽しみました。会場は幻想的な空間に包まれました。



## 成果と課題

企画会議や講座の運営に携わっている小中学生のキッズスタッフには令和7年度は13人が登録し、企画員の中でも異世代交流が広がっています。講座に参加した受講生からは「楽元の森でしかできない貴重な体験でした」、「私もキッズスタッフの活動がしたいです」などの感想が寄せられました。会議や講座の日程等について今後検討していく予定です。

## 今後の展望

地域の住民同士が交流する機会を作れるよう、また「楽元の森運営委員会」が主体的に楽元の森の整備やイベント等の事業企画・運営を行ったり、地域の活動に参加したりできるよう、支援を継続していきます。

## 4月～11月(8月を除く)「企画会議」

「楽元の森」で行う講座の企画や運営について話し合いました。



## 10月26日(日)「山田ふれあいまつり」

楽元の森運営委員会のブースを出し、楽元の森での活動を紹介しました。





## 事業概要

茂庭台地区の中心にある市民センター前の広場に、地域住民が気軽に集まって交流し、「顔の見える関係」を深めることを目標に、企画員を中心に様々な事業を企画・実施しています。

## 令和7年度の活動

- 7月：「盆踊り練習会」  
 12月：「音楽と灯りのもにわだいフェス」  
 （第1部：コンサート、第2部：ライトアップ&たき火）  
 2月：「天空の広場 凧あげ大会」



企画会議を年間6回実施。  
↓ランタン制作の様子



## 【音楽と灯りのもにわだいフェス】12月20日（土）15時00分～18時30分

## ■第1部：コンサート

今回はヴァイオリニストの鹿嶋静さんに加え、ピアニストのスティーブ・スモールさん（NZ）が、素晴らしい演奏を披露してくださいました。お二人は前日、茂庭台小・中学校で、「太白区地域連携ネットワーク事業」による演奏とキャリアトークを行い、児童生徒と交流を深めました。児童館ハンドベル隊は昨年にも続く2回目の出演で、一生懸命演奏することもたちに大きな拍手が送られました。最後のカントリーダンスでは、会場の皆さんも踊りに加わり、大いに盛り上がりました。



## ■第2部：ライトアップ&amp;たき火

これまでのペットボトルランタンに加え、新たにペットボトルツリー、カラフルなイルミネーションライトで広場をライトアップしました。来場者は灯りを眺めながら会話をしたり、写真撮影をしたりして、楽しんでいました。また、たき火を2か所に増やし、昨年よりも多くの方が火を囲んで交流していました。



## 成果と課題

「音楽と灯りのもにわだいフェス」は、今年で5回目を迎えました。少しずつ形を変えながら継続して取り組んできたことで、地域のイベントとして定着してきており、今年度はこれまでで最多の250名を超える来場者がありました。幅広い年代が集い、「広場を活用して顔が見える関係を深める」という目標が達成されました。一方で、企画員が減少しているため、若い世代や現役世代にプロジェクトをアピールし、新規メンバーを増やすことが課題となっています。

## 今後の展望

企画員の思いやアイデアを形にし、主体的な取り組みを継続していけるよう支援していきたいと考えています。特に、若い世代とのつながりを持つために「茂庭台をもっと元気にし隊」（小学生～高校生の企画講座）との連携などを視野に、活動を発展できるよう働きかけていきたいと思います。



## 事業概要

富沢地域は宅地開発などの影響で人口増が続いています。転入者も多く、子育て世代が特に多いのが特徴と言えます。このような特徴から、市民センターでは町内会と子育て世代が協働して活動することを通して、異年齢や団体同士の交流及び地域活性化を推進する事業「パワフルとみざわネットワーク」に取り組んでいます。本事業は、地域資源を活用した行事を定着させることで、住民同士の交流が深まり、顔の見える関係づくりが促されることを目的に掲げています。加えて、地域人材の発掘・育成にも力を入れています。イベントは、地域資源「笹川」にちなみ「ざる川フェスティバル」（略称：ざるフェス）と名付け、平成28年度から開催しています。



## 令和7年度の活動



「ざるフェス」は「郷土愛を育む」「地域交流の輪を広げる」を目的に開催しています。今年度は笹川沿いの6町内会、TNO（富沢・長町おやじの会地域ネットワーク推進委員会）、各校の社会学級の代表者が中心となっている「実行委員会」に、富沢中学校の有志による「中学生実行委員会」が加わり、企画運営に当たりました。内容は、ステージ発表・縁日・屋台・笹川スナップ写真・炊き出し訓練（芋煮）・中学生実行委員会企画の「お菓子作り」「水ヨーヨー作り」等を実施しました。今年度は雨の中での開催となり、会場は市民センターになりましたが、雨の中にも関わらず1,200人を超える来場者にお楽しみいただきました。

## 成果と課題

地域住民や中学生が中心になって地域イベントを企画運営したことは、地域ネットワークの拡充と顔の見える関係づくりにつながったと感じました。今回、荒天にも関わらず地域の方々が多く来場してくれたことは、「ざるフェス」が地域に根付いてきた証とも言えます。今後も地域活性化の促進に向けて、課題となっている人材不足の解消に向けた取り組みを進めていく予定です。



## 今後の展望



ざるフェスは地域行事として、富沢地域に広く認知されていますが、2027年には節目と言える10回目を迎えます。残り2年で課題としている人材不足の解消やイベントによる地域活性化に向けて、多くの方々と創意工夫を凝らしながら発展していけるように努めるとともに、継続性の高い体制づくりにも取り組みます。

また、継続可能な行事として「ざるフェス」だけでなく「パワフルとみざわネットワーク」で様々な可能性を検討していきたいと考えています。



### 事業概要

泉区内に通学する大学生を中心に、地域の現状や課題を考え、学生の自由な発想で地域創造に向けた取り組みを企画・実施する事業です。地域課題の理解を深めるとともに、企画から運営まで主体的に関わることで、協働の意識や地域への関心を高め、社会の一員として自発的に行動できる力を育むことを目的としています。



### 令和7年度の活動



今年度は、昨年度から継続参加の2名と新規1名の計3名で活動しました。学生の「七北田公園を活用したい」という思いから、七北田公園活性化協議会や（一社）泉青年会議所と連携し、まちづくりに関する助言を受けました。そのつながりを活かし、10月には、七北田公園を会場とした夜間イベント「IZUMINATION」に学生ブースとして出展し、「牛乳パックランタン」と「光るブレスレット」のワークショップを実施しました。当日は3名の企画メンバーに加え、興味を持った学生5名が自主的にスタッフとして参加しました。

### 成果と課題

今年度は、計画から実施まで学生が主体的に取り組み、こどもから大人まで楽しめる企画を熱心に話し合いました。道具の準備やブースの運営、地域人材との連携、参加者との交流も積極的に行いました。企画当日は悪天候にもかかわらず、2日間で約100名の市民がワークショップに参加し、イベントを盛り上げることができました。また、（一社）泉区プラスの協力でFMいずみのラジオ番組に出演し、広報活動を行う貴重な経験を得ました。一方で、活動メンバーが少数であることやイベント準備に多くの時間を費やしたことが課題として残りました。



### 今後の展望

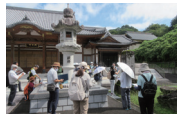


今後は、今年度の活動を振り返り、より多くの学生が気軽に参加できる仕組みづくりを進めます。広報の方法を工夫し、地域メディアやSNSを活用して情報発信を強化します。また、地域団体との連携をさらに深め、学生の自由な発想を活かした新しい企画を検討します。こうした取り組みを通じて、若者が地域づくりに主体的に関わり、地域課題の解決に向けた実践力を高めることを目指します。



## 事業概要

泉区中央市民センターの管内には、奥州街道の宿場町として1623年に始まった七北田宿があり、2023年で開宿400年となりました。その節目の年を迎えるにあたり、令和2～4年度まで複数年で「いずみ探訪—地域案内人養成講座」を開催し、七北田地域の歴史資源を学んできました。その講座の受講生から発足した自主活動グループ「七北田探訪会」が案内人となって、令和5年度より本事業「まちを知る 七北田を歩く」を開催し、奥州街道の宿場町だった歴史、史跡など古きを知ることで未来の自分たちのまちを考える機会となるようなまち歩きの講座を実施してきました。3年目となる今年度は、訪問範囲を広げ、泉区内の歴史資源の価値を地域に伝えることを重視して実施しました。



## 令和7年度の活動

令和7年度は地域住民を対象としたまち歩き講座を2回開催しました。9月6日には「洞雲寺・七北田刑場跡編」、11月12日には「熊野神社・中山早坂石碑群編」を実施しました。昨年度に引き続き洞雲寺を訪れましたが、今年度は往復マイクロバスを活用できたことで移動範囲が広がり、新たに七北田刑場跡をコースに加えることができました。



また、これまで七北田地区周辺に限定していたまち歩きを、泉区の西側へと広げて地域の貴重な歴史資源を訪れる機会を設けることができた点は大きな進展と言えます。2回ともマイクロバスを利用できたことで、移動時間を活用した車内の解説や現地での十分な説明時間が確保でき、内容の充実につながりました。また、案内を担当した「七北田探訪会」のメンバーにとって初めての場所が含まれていたため、事前の下見や歴史資源の調査、説明内容の検討を重ね、さらに写真を多用した配布資料を作成し、後から振り返りができるように工夫しました。また、「質問カード」を新たに取り入れ、参加者が疑問点を気軽に質問できるようになり、移動中や講座終了後のまとめの時間に回答することで、主体的な学びの場を実現することにつながりました。

## 成果と課題

今年度の成果としては大きく2点挙げられます。第1に、訪問範囲を広げ新たな場所の案内に挑戦したことで、案内ボランティアの意欲とスキルの向上につながり、さらに、参加者の興味・関心を深めることもできました。第2に、講座参加者のうち2名が新たに「七北田探訪会」に入会し、活動のすそ野が広がりました。

参加者からは、「身近な地域に深い歴史があることに感激した」「説明や資料が分かりやすく充実していた」「もっと地域の歴史を知りたいと思った」などの好意的な感想が寄せられ、地域の歴史を学ぶことで地域への愛着を深めるという目的は十分に達成できたと感じます。また、昨年度の課題であった「訪問先の十分な時間確保」についても、バス利用と事前準備の重点化により改善を図ることができました。

## 今後の展望

今後も引き続き「七北田探訪会」と連携して、地域への関心が高まるきっかけとなるまち歩き講座を開催する予定です。また、新規メンバーを迎えた「七北田探訪会」のスキルアップやメンバーの増員につながる活動を支援するとともに、学びを地域に還元する活動として発展させていきます。





## 事業概要

近年、根白石地区では子育て世代の新規居住世帯が増え、こどもの数も比例して増加しています。しかし、公園などの施設が少なく、こどもたちが自由に遊べる場所や保護者同士が交流できる機会が限られていることが課題となっています。このため、令和7年度は、様々な団体の協力を得ながら、地域の特色を活かした講座を開催し、こどもの成長を地域全体で支える環境づくりと、共助意識の醸成を目指しました。



中学生との企画会議

## 令和7年度の活動

## ①「夜の散歩会」(7月)

ホテルに関する講座と地域の生息地での観察会を実施しました。こどもたちは夜の自然に親しみ、大人たちとの交流を深める貴重な機会となりました。

## ②「さあ体操で遊ぼう!出張体操プレーパーク」(12月)

トランポリンや遊具を使った体操イベントを企画し、寒い冬でもこどもたちが楽しく体を動かせる場を提供しました。

## ③「ノーゼネレーションフェスティバル」(2月)

地域の小学生が、中学生や大人と世代を超えて交流できる場をつくりたいという思いを込めて名付けました。当日は、中学生企画員が自分たちで考えたブースを出展しました。



ホテルに関する講座 (7月)

## 成果と課題

子育て世代の3名が企画員となり、地域の課題を踏まえて、ホテル観察や体操イベント、世代間交流フェスティバルを企画しました。これらの取り組みを通じて、こどもたちが自然と触れ合い、運動の楽しさを体験できる機会をつくりました。さらに、活動の中で幅広い世代が顔を合わせることで、自然な交流や会話の機会が生まれ、地域のつながりづくりに貢献しました。



体操イベント (12月)

## 今後の展望

今年度は、企画員のアイデアを活かし、自然体験・運動・世代間交流など多様な活動を実施することができました。今後も、自主的で創造的な活動を続けることで、地域を担う人材としての経験値が高まることが期待されます。

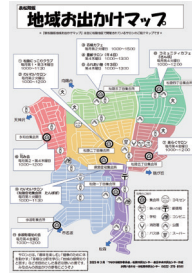
今後は、季節や地域の資源を活かした新しい講座を企画し、子育て世代や新旧住民の交流をさらに広げることで、地域全体でこどもを育てる環境づくりを進めたいと考えています。



松陵市民センター  
HP

## 事業概要

松陵・向陽台地域では地域の高齢化とともに、集会所・コミュニティセンター・老人憩の家で行われる「高齢者サロン」の重要性が増えています。しかし、地域活動に従事する人材は少なく、サロン代表・担当者の負担増やサロン同士の横のつながりが十分とはいえません。そこで本事業では、各サロンの活動内容をまとめたパンフレットを作成し、活用してもらうことで更なる横のつながりやサロン主催団体を含めた地域住民全般に地域の情報を広げて知っていただくことを目指します。



## 令和7年度の活動



5月に松陵・向陽台の各サロン代表者と打合せを行い、さまざまなご意見をいただきました。その中で「新規参加者が、いかに入りやすい環境を整えることができるかがとても大切である」という話を伺いました。そこで、各サロンの活動拠点である地域のコミュニティセンターや集会所に出向き、「つながるプロジェクト」の趣旨を説明し、各団体の情報収集に努め、最新の情報に更新するとともに、サロンの雰囲気や活動内容が一目で分かるようなパンフレットを作成しました。

## 成果と課題

これまでの取り組みにより、他のサロン活動の見学をしたいという声も聞かれるなど、始まった当初に比べ、着々とサロン同士の横の「つながり」が出来てきています。令和7年度は5年間の複数年事業の最終年度となりましたが、パンフレット作成を通じて団体間の情報交換を行うことができ、団体同士の「つながり」をいままで以上に構築、強化することができました。

サロン代表者や担当者の後継者不足については今後の課題です。



## 今後の展望



令和3年度から作成を続けてきた各サロンの紹介パンフレットとその団体の活動拠点をお知らせするお出かけマップは、地域での認知度も高まり、配布・配架したサロンや民生委員児童委員の方から非常に有用で重宝しているとお声をいただいています。今後もこのパンフレットを目にした方がサロンに興味・関心を持ったり、他サロンとの交流などを通じて、「つながり」が広がっていくよう、引き続き支援していきたいと思っています。

# 「まなびのカタチ」



人は生涯にわたって「まなび」を織りなしていく。

家族や友人、学校から教わることもあれば、本や経験から自分で学びとることもあります。こどもから高齢者まで、「まなび」は人それぞれにカタチがあり、内容も方法も変化していくものです。

そんな「まなびのカタチ」のひとつに、市民センターでの「まなび」があります。市民センターは市内に60館あり、毎年300万人もの方々に利用されています。

市民センターでは、

- ◆ 講座等を受講しての「まなび」
- ◆ サークル活動等での「まなび」
- ◆ 自ら講座の企画にかかわる「まなび」

と、様々なカタチでこどもから高齢者までが楽しく学んでいます。人それぞれの「まなび」が深まり、つながり、ひろがる楽しさのきっかけが市民センターにあります。

その中でも、市民が自ら企画し、自分たちの地域について考える講座、いわゆる「**市民参画型の講座**」が増えています。

みんなで話し合い、方法を探り、自分たちの企画を実行し、振り返り、より良い方法を考える…。時には失敗もあるかもしれませんが、失敗こそが新たな「まなび」をつくり出します。そして、達成感と充実感から、笑顔あふれる講座となっていくます。

**みんなと一緒に活動し、地域や社会で自分の力を生かすこと！  
それが、市民センターが今オススメする「まなびのカタチ」です！**



P5 北山さんぼみちー過去から未来へ



P7 まいぶる

# 事業参加者からの声



仲間が増えた。



挑戦できた一年。



自分らしく  
いられる場所です。

新しい気づきが  
いっぱい。



世代を越えた  
活動が魅力。

語り合うのが  
楽しい!



大人同士で  
楽しむ時間が  
貴重です。



●市民が企画し、活躍するカタチは、さまざまなものがあります。

こどもが!

- ◆子ども参画型社会創造支援事業※
- ◆ジュニアリーダー

など

大人が!

- ◆住民参画・問題解決型学習推進事業※
- ◆市民企画講座

など

若者が!

- ◆若者社会参画型学習推進事業※
- ◆住民参画・問題解決型学習推進事業※

など

ボランティアとして

- ◆図書ボランティア
- ◆託児ボランティア
- ◆地域ガイドボランティア

など

※世代に応じた「市民参画型の講座」の事業名です。

みなさんも、ぜひ仲間になって  
市民センターで活動を楽しみませんか?

●令和8年1月18日(日)

仙台市市民センター子ども・若者・大人事業成果報告会を仙台市生涯学習支援センターで開催しました。

様々な「まなびのカタチ」について知る機会として、市民参画型の講座を中心に、各市民センターでの特色ある取り組みについて発表したり、意見を交流したりしました。例年1月に実施しています。



子ども参画型社会創造支援事業の発表



住民参画・問題解決型学習推進事業の発表



若者社会参画型学習推進事業の発表



意見交流会の様子

市民センターには、今回ご紹介した講座以外にも、**市民の皆さんが主人公になる講座**がたくさんあります。詳しくはお近くの市民センターまたは仙台市生涯学習支援センターにお問い合わせくださるか、市民センターホームページ等でご覧ください！



仙台市市民  
センター  
ホームページ



仙台市市民  
センター  
Instagram



YouTube  
「仙台市市民センター」  
チャンネル



~きつと笑顔の花が咲く~



令和8年  
3月発行

企画・編集・発行 仙台市生涯学習支援センター

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-1-8

TEL 022-292-4875 ■ FAX 022-295-0810